

丹沢（同角尾根）

山行日 7月16（金） 天気：晴れ

参加者 2名

記：SF

コース：玄倉バス停 5：25 → 小川谷出合 6：15 芋ノ沢ノ頭 8：00 →
ワナバノ頭 8：31 → 小ダギリ 8：45 → 大ダギリ 9：10 →
太タル丸 9：45 → 女郎小屋ノ頭 10：10 → 東沢乗越 11：10 →
同角ノ頭 14：90 → 石棚. 同角分岐点 15：00 →
県民の森 17：20 → 玄倉バス停 18：20 →

丹沢の中でも最上級のバリリートで、ネットで紹介されている、以前よりこのコースへ挑戦しようと、準備していましたが、天候の回復を待って、結構、コースが長いので、玄倉バス停で、仮眠し5時30分に出発、最初の場所小川谷出合に、この日は川の水量が多く渡渉は靴を抜いて渡った、対岸に紫の新しいテープがありそれを目印に芋ノ沢ノ頭へ向かう途中には作業用の丸太の階段があり、芋ノ沢ノ頭へ山頂は鹿柵で通行できないので鹿柵沿に進むと、手作りの標識が柵に取付てあった、次の目標のワナバノ頭への間は、緩やかな尾根道で歩きやすい、この先が今回のポイント小ダギリ、大ダギリで、最初の小ダギリは気が付かないで通過、大ダギリは、ロープが設置されていたが、足場は悪く、下りでは、ロープを頼りにしないと下れない、下降点は幅1m位の場所で反対側にも設置ロープがあるがやはり足場は悪い、高さは妙義山で有名は鷹戻しと同じ位の高さで、約40-50mの壁を、設置ロープを頼りによじ登った、その後ネットでは有名な女郎小屋ノ頭があるが気づかずに通過していた、但し、細尾根で急なアップダウンの繰り返しの場所です、次の目標の東沢乗越へ、途中の裸山丸で90度北に方向が変わる場所で尾根筋が2個あり右側の尾根に入り50m先で崖となっている為戻り左側の尾根を進むと東沢乗越の標識があった、この先で早めの昼食を取った、ここから同角ノ頭までは尾根筋を登るだけと安心したがこの先標高1200m付近で、尾根が分断されていた、踏み後から見ると3m位の岩壁の縊れでした、右側のざれた場所を下り、反対側のザレタ急斜面を、私は自力で登ったが連れが登れずに、ザイルを出し補助したが、その時に足が攀ってしまい約50分の回復タイムを取った、その後も足の調子がわるく、時間が掛かった、又同角ノ頭付近は岩で、苔が岩に付いているので、滑りやすい、予定より2時間後に同角ノ頭に到着、ここからは、昭文社地図の登山道となるが、現在利用されていないので、踏み後が薄く登山道が分かりにくい場所もある、又今回やマップでは、石棚、同角分岐点までの間は立ち入り禁止区域となっています、石棚、同角分岐点より石棚山で向かい、県民の森方面へこのコースは晶文社地図では点線となっているが、コースを表すテープが多く取り付けてあり、道迷に心配は無い、県民の森に17:20に到着ここから玄倉バス停までの間は約4kmの舗装で登山靴での歩行は足が痛い、18時20分に玄倉バス停に到着この時期なので、まだ明るいのでランプは使用していない、今回のコースは長いので、このコースの山行では、青ガ岳山荘に1泊する方法もある、又気温の低い11月位の山行が良いと思われれます。



ここから河原に降りた



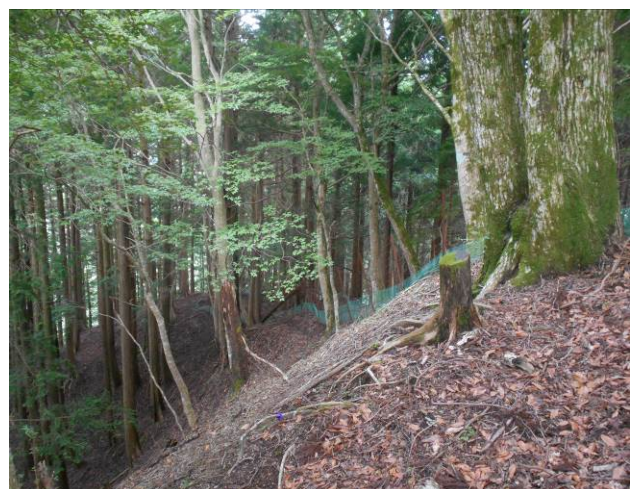
渡渉ポイント 今日水量が多い



紫の新しいリボンがあり
これを見ながらワタバの頭まで



鹿柵沿いの急登



登って来たルートを振り返った



ここも鹿柵沿いを



芋ノ沢の頭 本当の場所は鹿柵の中



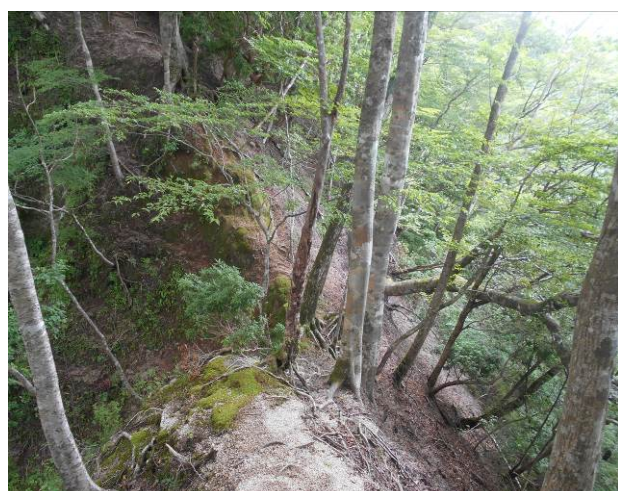
細い尾根通過



キノコ 名前は不明



細尾根のアップダウン

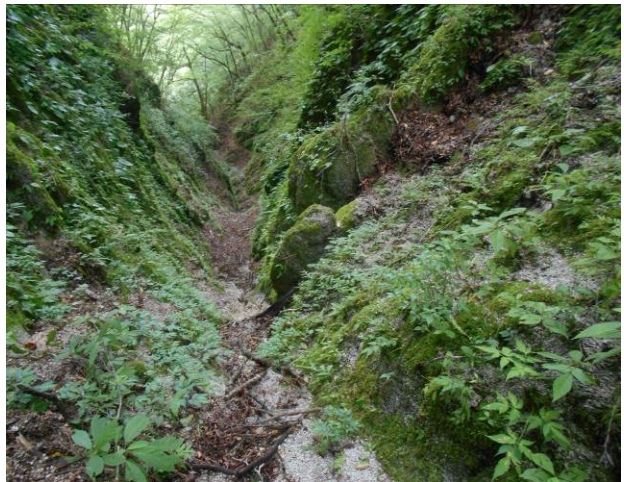


この場所が小ダギリと思われる



大ダギリの下り

右が登りの場所



大ダギリの下降点 両側が崖



登りの中間点より



さらにこの上に登る



女郎小屋ノ頭の下降点
お助けロープがあった



下降点からの登り



東沢乗越 古い標識



細い尾根が続く



この先で岩の罅れに遭遇



ザレタ場所を下る



ここが岩の縫れここが繋がってれば
通過は簡単



同角ノ頭へもう少し 休憩中



藪の奥が同角ノ頭



同角ノ頭に到着



このルートは現在使用されていないので
標識も消えかかっている
(ユージンまでのルートが崩落の為通行止め)
来年3月末には開通する予定